

inangsim  
inangsim  
私の信仰



单元  
6







# 啓典を信じること

1. 啓示とその必要性
2. アッラーによる書物
3. クルアーンの啓示
4. クルアーンの筆記と啓典化
5. 知識の観点からクルアーンが目標としている人間像
6. 信仰の観点からクルアーンが目標としている人間像
7. 行動の観点からクルアーンが目標としている人間像





### 単元について

この単元では、

- 崇高なるイスラームの信仰の基本の一つである、啓典への信仰について言及されています。
- 啓示の意味が説明され、人間がなぜ啓示を必要としているのかが示されています。
- 神の書物である、律法、詩篇、聖書及びクルアーンについて入門的な、一般的な知識について言及されています。
- 神聖なる書物であるクルアーンの、預言者ムハンマドへの啓示、記録、そして本という体裁にされたという主な流れが説明されています。
- クルアーンの目的は人間に道を示し、アッラーのご満悦に適った形で生きることができるようにすることです。これに関連して、この単元では知識、信仰、行動の各観点から、クルアーンの目標とする人間像の特徴について説明されています。

### 学習目標

この単元の終えたときには、下記のような目標に到達することができます。

1. 啓示の意味を説明する。
2. 啓示がなぜ必要であるか説明する。
3. 神による書物の特徴を説明する。
4. 知識の観点からクルアーンが目標としている人間像の特徴を説明する。
5. 信仰の観点からクルアーンが目標としている人間像の特徴を説明する。
6. 行動の観点からクルアーンが目標としている人間像の特徴を説明する。

### 学習時には

1. 単元の冒頭に掲げられた目標に到達できているかどうかを確認しましょう。到達できていない項目を再び読んでみましょう。
2. 単元の中で取り上げられている研究、観察は必ず実行してください。
3. 単元を学ぶ際には、教科書を読むだけで十分としないでください。巻末にあげてある文献の中で、入手可能なものは実際に読んでみてください。





「あなたがた信仰する者よ、アッラーとかれの使徒を信じなさい。また使徒に下された啓典と、以前に下された啓典を信じなさい」(婦人章第136節)

# 1

## 啓示とその必要性



### 啓示

啓示とは、言語学的には秘められた会話、密やかに速やかに伝えること、しるしといった意味になります。

- 啓示は、アッラーが人間にとって必要であると見なされた知識を、預言者たちに伝える手段です。
- 同時に伝えられた知識のことも啓示と呼びます。

クルアーンでは、啓示について次のように説かれています。



「アッラーが、人間に(直接)語りかけられることはない。啓示によるか、帳の陰から、または使徒(天使)を遣わし、かれが命令を下して、その御望みを明かす。本当にかれは、至高にして英明であられる」(相談章第51節)

### 啓示とアッラーによる呼びかけ

アッラーは、人間たちの中から選ばれた預言者たちを通して、人々に呼び掛けられ、命令や禁止事項を啓示によって伝えられました。預言者たちは啓示をアッラーから授けられたままの形で人々に伝えました。そしてそれをどのように実践に移すべきかを示したのでした。



#### 考えてみましょう

アッラーは人間たちに、なぜ啓示という手段で呼びかけられたのでしょうか。

### 啓示の効用

アッラーは、啓示という形で、人々に大きな恵み、援助、支えを与えられました。啓示によって与えられた知識は、人間がこの世界での暮らしで正しい道を見つけ、過ちから身を守ることを助けます。安全で安らぎに満ちた、アッラーのご意志に適った幸福な一生を送るための原則を伝えているのです。

人間が本来備えている純粋で清らかな本質を維持していくためには、アッラーのご援助とお導きが必要となります。アッラーは啓示によってご自身のこと、すなわち創造主について教えられ、人間のアッラーと世界との関わりを方向づけられ人生の計画を与えられたのです。





### 考えてみましょう

アッラーが啓示で、人間とアッラー、人間と世界、そして人間同士の関わりについて知識を与えられたということについて説明してください。

## 啓示と人間の理性

- 人間は理性を持つ被造物です。理性によって善悪、正邪を区別することができます。
- アッラーは啓示によって、人間の理性を良いものへと方向づけられました。そして人間が理性では見出すことのできない崇高な英知を示されたのです。
- 人間はこの世界で、いくつかのことを理性や経験によって身につけ、発展させることができます。
- 啓示は人生の指針です。生涯を、アッラーのご意志に適ったものとするために無くてはならない崇高な規範の集大成なのです。
- 啓示は、人間個人もしくは集団の言葉、行動、さらには意志についてそれが有する価値を明示します。アッラーの御前においてそれらが良いことか悪いことか、正しいことか悪いことかを示しているのです。
- 人間は、啓示によってもたらされた規範に従うことで、自らを他の被造物から区別する、素晴らしい徳を備えた存在となるのです。

94



### 考えてみましょう

啓示は、人間が徳を備えた存在となるためにどのように寄与しますか。

## 啓示と、現世・来世のつながり

- 啓示は、アッラーの存在、世界の創造、死後の生と魂の存在についての知識をもたらしました。
- 人間の理解力を超越しているこれらの重要な事柄は、啓示によってよりよく理解することができるのです。このようにして人間は、真実が想像よりもはるかに深遠なものであることを理解し、アッラーのご意志に適う人生の真の意味と目的に到達するべく進み始めるのです。
- 人間には、現世に加え来世での生もあります。来世での生がどのようなものか、そしてここでは人間が現世で得たものに応じて生が待っているといたことは、人間の理性で知り得ることはできません。
- 死後の復活や世界の終焉、最後の審判、そして天国や地獄といった事柄について私たちが知っていることの源は啓示です。
- 現世において啓示によって知識を得た人間は、それに適った振る舞いによって現世をより良きものとし、同時に永遠の生である来世での幸福をも獲得することができるのです。



## 2

## アッラーによる書物



## 啓典への信仰

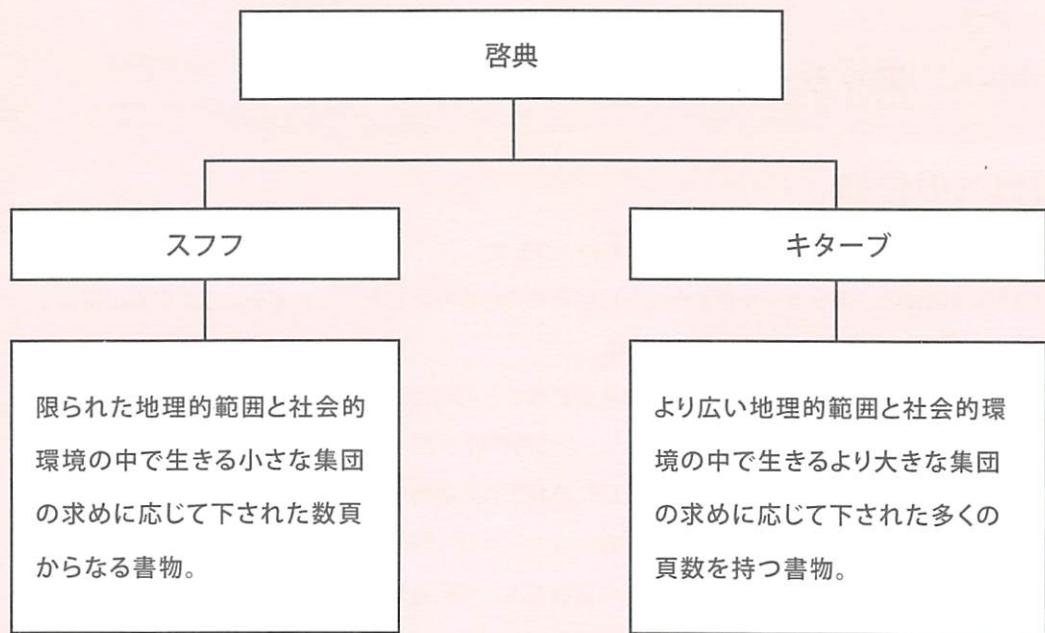
- 啓典への信仰は、イスラームの教えの根本の一つです。
- 啓典への信仰は、アッラーが預言者たちに啓典を遣わされたこと、そしてそれらが完全に正しく、真実であることを信じることを意味します。
- アッラーと預言者を信じることと、啓典を信じるの間には密接な関係があります。なぜなら預言者たちは、啓典を構成する啓示をアッラーから受け取っていたからです。
- 啓典とは、アッラーが預言者を通して人間に遣わされた書物であり、アッラーが人間たちに与えられた知識や命令、禁止事項を含んでいます。
- それらを天の書物とも呼びます。これらの書物では、預言者たちが生きた集団における言葉が使用されています。（イブラーヒーム章第4節参照）
- 啓典の基本的な意図は、人間が現世と来世においてアッラーのご満悦を得て、幸福になることです。どの啓典も、人間に正しい道を示している指標なのです。
- 各啓典は、それぞれ異なる時代に、異なる集団に遣わされたものではあるものの、その集団によって変更が加えられない限り、すべての呼びかけは同じ方向性を持つものです。
- 人間をしっかりとした信仰、正しい振る舞い、正義と公正さに基づく人間関係への理解と高い道徳を身につけた存在とすることが、それらの書物の最終的な目的です。
- クルアーンは、クルアーン以前にも啓典が下されていたことを認めています。それらの書物についての知識も与えています。
- アッラーの啓示であるという点で、それぞれの啓典の原本は同等であると見なされています。
- それらの啓典は、それに従う人々の手によって後に変更が加えられたとされています。
- アッラーから下されたとおりの形で、それらすべてを信じることをクルアーンは命じています。



「かれは真理をもって、あなたに啓典を啓示され、その以前にあったものの確証とし、また（先に）律法と福音を下され、この前にも人びとを導き、（今）また（正邪の）識別を御下しになる」（イムラーン家章第3-4節）

啓典は、その分量によってスフフ（書巻・巻物）とキターブ（本、書物）に分類されます。





## スフフ

本の頁や巻物という意味を持ちます。クルアーンは預言者イブラーヒームのスフフについても言及しています。何人かの預言者に与えられたスフフの頁数の合計は100頁であり、それらのうち預言者アダムに10頁、預言者シトに50頁、預言者イドリスに30頁、預言者イブラーヒームに10頁が与えられたと言い伝えられています。ただしこれらのスフフはいずれも今日まで伝わっていません。

## キターブ

スフフと比べるとより広い地理的範囲と社会的環境の中で生きるより大きな集団の求めに応じて下された多くの頁数を持つ啓示をキターブ（本）と呼びます。キターブは辞書的には、書くこと、書かれたものという意味になります。ユダヤ教徒とキリスト教徒にはキターブが賜れたため、彼らはアフル・アル・キターブ（啓典の民）と呼ばれます。これらのキターブは4冊あり、下された順に律法（タウラート）、詩篇（ザブール）、聖書（インジール）、クルアーンと呼ばれます。啓典というとまずこの四冊の本を指します。



### 考えてみましょう

アッラーはなぜ人間に一定の期間ごとに啓典を下されたのでしょうか。



ています。無知であること、知識を持たないことは道徳的な真実から遠ざかっていることであり、同時に真実を見ることを頑なに拒むことであり、聴こうとしない姿勢から生じるものです。真実へと人を導く知識に対し、自らを閉じてしまうことも、無知であることなのです。

## クルアーンに見る知識と行動の一致

私たちの書であるクルアーンは、知識と行動が一致していなければならないと指摘しています。知識のある人とは、知っていることにふさわしい行動をとる人という意味なのです。クルアーンで知識の観点から模範として示されているのは、その知識と一体化している人です。自らの知識が示す道へと進まない人、その知識の与える責任を負わない人、知っていることにふさわしくない行動をとる人をクルアーンは非難しています。

クルアーンは、アッラーを正しく知ることができるのは知識を得た人のみであると語っています。それによって人はアッラーへの信仰を強め、アッラーにより近くなるのです。「アッラーのしもべの中で知識のある者だけがかれを畏れる」（創造者章第28節）

## クルアーンに見る知識と信仰の関係

知識と信仰の間の緊密な結びつきと知識が信仰を必要とすることについても、クルアーンは特に指摘しています。「ただしかれらの中、確実な根拠のある知識を持つ者、と信者たちは、あなたに下されたものと、あなた以前に下されたものを信じ、礼拝の務めを守り、定め喜びをして、アッラーと終末の日を信じる。これらの者には、われはやがて偉大な報奨を与えるであろう」（婦人章第162節、イムラーン家章第7節）

アッラーに対する責任を自覚する人への道案内であるクルアーンの忠言、教訓は、真の意味で知識を持つ人だけが理解できるのです。



「これらは、われが人間のために提示する譬えである。だが知識ある者の外は、これを理解しない」（蜘蛛章第43節）

「またかれが、諸天と大地を創造なされ、あなたがたの言語と、肌色を様々異なったものとされているのは、かれの印の一つである。本当にその中には、知識ある者への印がある」（ビザンチン章第22節）

「アッラーのしもべの中で知識のある者だけがかれを畏れる。本当にアッラーは偉力ならびなく寛容であられる」（創造者章第28節）







## 信仰の観点からクルアーンが目標としている人間像



### クルアーンの警告

- クルアーンは、人々が導きと安寧を得るために正しい信仰を持ち、あらゆる種類の迷信や逸脱した信仰から遠ざかるために必要とする多くの言葉を含んでいます。
- 人間の歴史を通してすべての預言者が行った呼びかけの目的は、人間を正しい信仰に導くことでした。
- しっかりとした、正しく信頼できる知識に基づいた信仰は、人間を正しい行いへと導きます。

### 確固とした知識と信仰

- 正しく考え確固とした知識と信仰を持つ人は、真実を見出すことができます。このような人が、知識と信仰が一致した段階に到達することができるのです。
- まず信仰すべきことを知り、それから信仰が実現します。クルアーンはこのために、人間を被造物や事象について考え、研究し、知識を持つことへと招いているのです。（跪く時章第3-4節参照）また一方で知識は、信仰を培うために必要なものではあっても、それだけで十分でないことは明らかです。

### 信仰と自由選択

- 信仰のためには知識と並んで選択の自由も必要です。なぜならアッラーと人間との特別な結びつきである信仰は、ひとえにその人の選択、承認、結びつきによるものだからです。

### 信仰と責任

- 私たちは信仰が与える役割と責任を認識し、その求めるところを実践しなければなりません。もし私たちがそうしないのであれば、信仰は単に言葉だけのものとなり、道徳に反映されません。この点において、信仰が心に入り完全にそこに息づくことが重要となるのです。（部屋章第14節参照）
- 真の信仰を持つことは、信仰が言葉や行動と一つになることによって可能となります。この観点からクルアーンは、信仰と誠実な行為の間の緊密な関係を指摘しています。（星座章第11節、フッスィラ章第33節、時間章第3節参照）



#### 考えてみましょう

上記の章と節の番号が示されているクルアーンの箇所を読んでみましょう。



クルアーンは、信仰の観点から目標とする信者像を明白に、わかりやすく描写しています。知識・信仰・行動を緊密に結びつけ、それを自らの生き方とすることのできる人こそ、模範的な人なのです。真の信者の基本的な特質を描写しているクルアーンの章句として、下記のような例を挙げる事ができるでしょう。

## クルアーンの目標としている人間像



「かれらはアッラーと最後の日とを信じ、正しいことを命じ、邪悪なことを禁じ、互いに善事に競う。かれらは正しい者の類である」(イムラーン家章第114節)

「信者は、アッラーのことに話が進んだ時、胸が(畏敬の念で)戦く者たちで、かれらに印が読誦されるのを聞いて信心を深め、主に信頼する者たち」(戦利品章第2節)

「信者たちは、確かに勝利を勝ちとる。かれらは、礼拝に敬虔であり、虚しい(凡ての)ことを避け、施し〔ザカート〕のために励み、自分の陰部を守る者」(信者たち章第1-5節)

# 7

## 行動の観点からクルアーンが目標としている人間像



107

## クルアーンの正しさ、善良さへの忠言

クルアーンは、私たちの考え、感情、行為を正しく立派で役に立つものとするような命令や忠言を与えています。

その説明、警告、指示に従って行動できる人は、アッラーのご満悦を獲得し、真の幸福に至ることができます。

クルアーンは、人がその本質や言葉、行動が正しく、真実と美徳の体現者であり、クルアーンの言葉に忠実な存在となることを目標としています。なぜなら信仰と行動の間に矛盾のある人は、内面世界において真の安寧に至ることはできず、人々の敬意や信頼を損ねることになるからです。



### 考えてみましょう

信仰と行動の間に矛盾の生じている人は、なぜ安寧を得ることができないのでしょうか。



行動の観点から模範と示される人とは、クルアーンの表現を借りるなら、善行をなす誠実な人であり、クルアーンの多くの箇所では称賛されています。



「人びとをアッラーの許に呼び、善行をなし、本当にわたしは、ムスリムです。と言う者程美しい言葉を語る者があるか」（フッスィラ章第33節）

崇高な書クルアーンの多くの章句で、信仰と誠実な行いは同時に言及されています。なぜなら信仰に基づいた行動は、人の信仰への結びつきと誠実さを示すものだからです。このような人をアッラーは愛情によって包まれ、彼らの心に愛情を与えられます。（マリヤム章第96節参照）彼らはアッラーの報奨を得るに値する存在となったのです。



「信仰して、善行に励む者にとっては、至福〔トゥーバー〕がかれらのものであり、善美な所が（究極の）帰り所である」（雷電章第29節）

「信仰して善行に勤しんだ者には、川が下を流れる楽園がある。これは偉大な幸福の成就である」（星座章第11節）

## 偽信者

アッラーはクルアーンで、偽信者について信仰と行動の間の矛盾ゆえに非難しています。（偽信者章第1-3節参照）アッラーは信仰にふさわしい行動をとらない人々に警告を發し、信仰と行動を一致させることを求めています。

クルアーンが行動の観点から模範としている預言者ムハンマドは次のように語っておられます。



「誰であれ、心に誠実な信仰を定着させ、その内面を清め、舌を正しい言葉のために用い、我欲を落ち着かせ、その性質と道徳、行動を正しいものとするなら、彼は救われたということである」（アフマド、ムスナド、V/147）

## 信仰、知識と行動の関係

信仰と行動の間には、相互の関係と作用があります。慎重で善良な人は、信仰と行動の間のバランスと一貫性を守ります。行動は、知識と信仰に従って生じる一つの結果です。行動を認識の伴うものとし支えるのは、知識と信仰です。聖なる書クルアーンは、人の行動の背景に正しい知識と信仰の存在することを求めています。





## 単元のまとめ



崇高なる教えイスラームの基本的な信条の一つが啓典を信じることです。アッラーは預言者たちに啓示を通して呼び掛けられました。アッラーは人間への恵みと援助として預言者たちを通して啓示を下されたのです。

啓典は、律法（タウラート）、詩篇（ザブール）、聖書（インジール）、クルアーンです。量的に少ないスフフと呼ばれるものもありますが、これらは現在まで伝わっていません。これらの啓典が下された意図は、人間がアッラーのご満悦を得て、現世と来世で安らぎ、安寧、幸福を得ることです。啓典は人々に導きと真実を示すガイドブックのようなものです。

クルアーンは預言者ムハンマドに、約23年をかけて下されました。それは、人々がクルアーンの命令や禁止事項、基本的な規範や原則を理解し、実践することを容易にしました。

クルアーンは、預言者ムハンマドの指導と管理のもとに記録されていきました。もたらされた啓示はすぐに文字として書き留められ、預言者ムハンマドの死後にムスハフとしてまとめられました。後にこのムスハフを増やしていき、人々に広められました。最初の時期に実現可能となったこれらの事業は、クルアーンが啓示されたままの形で保持されることを可能としました。これはクルアーンを他の啓典と区別する最大の特徴です。なぜならその他の啓典は、啓示されたままの姿を保っておらず、それを信じる人々によって変化させられているからです。

クルアーンには、知識、信仰、行動の観点から目標とされる信者像の特徴が示されています。これによると、信仰は知識に裏打ちされるべきであり、行動によって支えられるべきなのです。崇高な書クルアーンは、感情、思考、行動を正しく立派で役に立つものとする忠言を含んでいます。預言者ムハンマドのすべての努力も、本質と言葉、行動が正しく、真実を守り、徳を備えた人間を形成するためのものでした。信仰と行動が互いに矛盾している人は、精神のあり方において真の安らぎを得ることとはなく、アッラーによって非難されると共に人々の敬意や信頼を失うこととなります。





## 単元の復習



1. 啓示の意味を説明してください。
2. 人間はなぜ啓示を必要とするのでしょうか。
3. スッフとは何を意味しますか。どの預言者にどれだけ下されましたか。
4. 律法（タウラート）、詩篇（ザブール）、聖書（インジール）の類似点及び相違点を挙げてください。
5. クルアーンとその他の啓典の違いについて説明してください。
6. クルアーンは知識の観点からどのような人間像を目標としていますか。
7. クルアーンが信仰の観点から目標としている人間像に関連のあるクルアーンの言葉を挙げてください。
8. クルアーンが行動の観点から目標としている人間像の特徴を説明してください。





## 確認のための問題



1. 下記の預言者のなかの誰に啓典が下されませんでしたか。
  - A) 預言者ムーサー      B) 預言者イーサー      C) 預言者ユース
  - D) 預言者ダーウード      E) 預言者ムハンマド
  
2. 下記の項目の中でどれが預言者ムハンマドの最大の奇蹟でしょうか。
  - A) ハディース      B) ミイラージュ (昇天)      C) マディーナへの聖遷
  - D) クルアーン      E) 月が二つに割れたこと
  
3. スフフの定義とは下記の項目の中でどれでしょうか。
  - A) 数頁から成る啓示      B) クルアーンのそれぞれのページ
  - C) 預言者ムーサーに遣わされた啓典      D) 預言者ヌーフに遣わされた啓典
  - E) クルアーンの別名
  
4. 啓典が人間に下された最も基本的な目的とは下記の項目の中でどれでしょうか。
  - A) アッラーについての情報を与える      B) どのようにドゥアーするべきかを教える
  - C) 宇宙に関する情報を与える      D) 人間に正しい道を示す
  - E) 創造に関する情報を与える
  
5. クルアーンをその他の啓典と区別する相違点は下記の項目の中でどれでしょうか。
  - A) 預言者ムハンマドの生前に書かれたこと
  - B) 版が増やされたこと
  - C) ムスハフとしてまとめられたこと
  - D) 啓示が下された民族の言語で書かれていること
  - E) 啓示によって下されたということ